

放射線 たより

＊Radiation News＊

Vol.7, 2023(Jan)

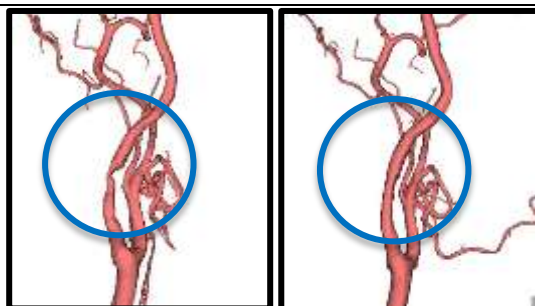


地域の皆さまへ ～「放射線たより ＊Radiation News＊」をお届けします！～

頸動脈ステント留置術（CAS）のご紹介

日本人の死亡原因の中でも上位を占める脳梗塞。発症の原因の一つは、頸動脈狭窄症が挙げられます。頸動脈狭窄症とは、動脈硬化により粥腫（プラーク）ができ、徐々に頸動脈が細くなることによって、脳の血流を阻害したり、血栓ができやすくなり、脳梗塞を引き起こしたりすることがある病気です。頸動脈狭窄症に対する治療法は、ひとつは内服による治療、そして頸動脈血栓内膜剥離術(CEA:carotid endarterectomy)、最後に、今回ご紹介する頸動脈ステント留置術（CAS：carotid artery stenting）があります。

CAS は、カテーテルと呼ばれる管を用いて頸動脈にステント（形状記憶の合金でできた筒）を留置する治療法です。足の付け根の動脈からカテーテルを挿入し、狭窄した頸動脈に対して風船を膨らませ、その後ステントを留置します。血管を拡張する際にはコレステロールの破片や血栓が脳内に流れていかないように、あらかじめ狭窄部分の先にフィルターを進めておくことで脳梗塞を予防します。原則的に局所麻酔で行い、治療時間はおおよそ2時間程度ですが、手技の難しい部位ではもう少し時間がかかることがあります。



CAS 術前と術後の 3D 画像



血管にステントを重ね合わせた 3D 画像

頸動脈狭窄症は、めまいや一過性黒内障などの症状から、頸動脈エコーや MRI 検査によって発見されることがあります。上記疾患をお持ちの患者様や疑われる患者様がいらっしゃいましたら、当院脳神経外科までご紹介下さい。（紹介窓口：地域医療連携室）

地域医療連携 受付

- 電話 072-469-7835（平日 9:00 から 18:00 まで 土曜日 9:00 から 12:00 まで）
 - FAX 072-469-7931（画像診断依頼用紙・保険情報 FAX用紙をご記入の上 FAX をお願いします）
- ご不明点や診療の予約は地域医療連携室に電話で問い合わせいただくか、もしくは当院 HP をご覧下さい

脳・腹部血管造影装置のご紹介

◆Azurion7 B20/15(PHILIPS 社製)◆

2019年9月から稼働していますが、バイプレーン装置と呼ばれ、2方向から同時に透視や撮影ができます。

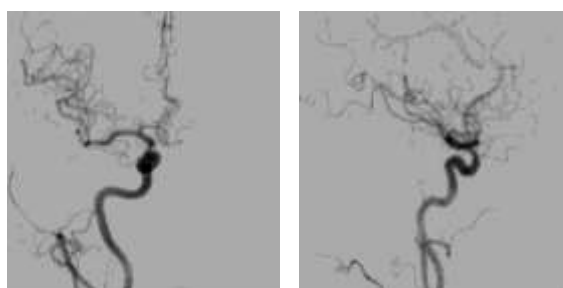
正面 30×38cm・側面 26×29cm の平面検出器 (FPD) を搭載しており、非常に広範囲な撮影ができます。また、X線画像処理技術 ClarityIQ を活用することで、低線量の X 線照射画像でも、高品質な画像処理を行い優れた画像が提供できます。当院の実験では、前装置と比べて約 60% の線量低減でも同等の画像を得ることができました。

緊急検査には、24 時間体制で対応しており。昨年度は、診断カテーテル 156 件、IVR (画像下治療) 121 件、血栓回収 47 件の稼働実績があります。

この装置は、主に頭部や腹部用として使用していますが、心臓血管造影検査のバックアップ用としても使用しています。



Azurion 7 B20/15



脳血管造影画像

【シリーズ より安全な造影検査を目指して!】

その6: ガドリニウム造影剤の副作用

MRI 検査で使用するガドリニウム造影剤は、腎機能が悪い患者様に使用すると腎性全身性線維症 (Nephrogenic Systemic Fibrosis : NSF) を誘発する場合があります。NSF とはガドリニウム造影剤による線維症のことで、造影剤投与後、数日から数ヶ月後に皮膚の腫脹や硬化、疼痛などにて発症する疾患です。進行すると四肢関節の拘縮などを生じて活動が著しく制限されます。一度発症すると治療方法はなく、予防するしかありません。

当院では eGFR : 30 未満の方 (右表 腎機能高度低下、末期腎不全にあたる方) には、透析の有無にかかわらず、造影 MRI 検査を行っていません。造影検査を依頼される場合、事前の造影検査同意書の取得と採血データ (eGFR 値) のご提示をよろしくお願ひします。

—NSF—について

eGFR(ml/min/1.73m ²)対応表	
	≥ 90
正常または軽度低下	60~89
軽度-中程度低下	45~59
中程度-高度低下	30~44
高度低下	15~29
末期腎不全	<15

*腎障害疾患におけるヨード造影剤使用に関するガイドライン 2018 より一部抜粋

◆ガドリニウム造影剤の投与に注意すべき事項◆

【禁忌】ガドリニウム造影剤に対し、過敏症(アレルギー)の既往がある場合

【原則禁忌】状態が極度に悪い患者様、気管支喘息の既往がある場合、重篤な肝障害・重篤な腎障害がある場合

★★★★★ 編集後記 ★★★★★

新年明けましておめでとうございます。今年は卯年ということで、飛躍や向上が期待できる年と言われています。今年こそは、コロナからの回復をぜひ期待したいものです。

今後もう少し皆様にお役に立てるような情報を発信して参りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。(田原)

放射線部たより (Radiation News)

放射線科・放射線治療科・診療支援局放射線部門
 発行責任者: 中田耕平 (放射線センター長)
 編集責任者: 中前光弘 (放射線センター副センター長)
 編集委員: 田原大世、池本達彦、梅木拓哉、
 今西麻梨子、高橋美帆、奥田響生
 Vol.7 発行日: 2023年1月4日